



# 市長と

# 車座トーク

## 第49回 曙学区（概要）



開催日時 2017年（平成29年）12月21日（木）

19:30～20:30

開催場所 曙公民館

参加者数 12人

次第 市長のあいさつ

意見交換

地域からまとめのあいさつ



### ＜車座トークでの主なご意見＞

- ・学区の体育会活動では、小学生から中学生も参加できるような形にしており、地域のつながりや交流が深くなっている。また運動会も中学生に参画してもらい、運動会を盛り上げてもらっている。
- ・不登校やひきこもりの児童・生徒を減らすための方法として、体育会の活動が役に立つのではないかと思います。公民館の掲示板や広報紙で活動を広く周知している。不登校・ひきこもりの問題は学校の対応だけではなく、行政の今まで以上の後押しが必要だと考えている。具体策を考えているのであれば教えて欲しい。
- ・女性会では声かけ運動や消防・市役所・警察の出前講座を実施している。また、地域団体や中学生と一緒に敬老会も開催している。課題は高齢化に伴い会員が減少していることであり、現会員の中に新規会員が入りにくいのか、生活の多様化も一因かなど、新規会員の確保をどうするか考えている。
- ・子ども会では、子どもが加入したいと思っても、保護者が「休みの日の行事が面倒」「役員はしたくない」というマイナスイメージを持っていることから加入していない、という世帯がある。そこで、

子ども達だけではなく、役員も含めた保護者が楽しんで活動できるよう、単位子ども会でお揃いのTシャツをつくって行事に参加するなど取り組んでいる。また、三世代交流への参加を子ども会として積極的に呼び掛け、一緒に行事に参加する中で各世代間の関係性が少しでも深まることを期待し、地域の三世代として声をかけ合い、助け合いながら子ども会としても地域の活性化へ貢献できたらと考えている。

- 老人会では様々な年齢の大勢の方に参加してもらうために、テーマを考えている。今年度は初めて、文化祭に野菜を出すことにした。種まきから収穫までみんなで月1回寄り合い話をするすることで、お互いの理解が深まったと思う。
- 老人会では緊急避難場所がないことが話題になっている。なるべく他人に迷惑をかけないよう避難したいが、避難場所になっているところは遠く、避難が難しい。学区からも要望しているが、旧新浜浄化センター跡地へ避難所を作って欲しい。売却の方向で話が進んでいると聞いているが、ぜひ緊急避難場所として利用させて欲しい。
- 学区内にはスーパーマーケットが1軒もない。高齢者に限らず若い世代でも買い物に学区外まで行くことが困難だという問題がある。機会があれば関係団体に話をして欲しい。
- 市が指定している避難所は海の近くであり、津波が来るのに海の方へ逃げたくない、という意見もある。また、一時避難したあとのビジョンを示してもらいたい。
- 各建物の管理者へ市から直接話をして、「避難ビル」に指定し看板をかけて欲しい。いざという時に施錠していれば開錠してもらいように取り組んでももらいたい。
- ブックスタート事業について、曙ではボランティアの会で実施している。また、現在市の1/3の学区で関わっていると聞いているので、学区ごとで検討してもらえるような話し合いをお願いしたい。
- 市内のラジオ体操会は25団体、会員数は約750名。年に1回の「1000万人ラジオ体操」か、夏の巡回ラジオ体操について、福山で開催するよう市から要請してもらっている。ぜひ実現して欲しい。
- 福祉を高める会は、毎月第3木曜日に「生きがいサロン」、第4木曜日に「おもちゃサロン」を実施し、高齢者同士や保護者同士の交流を図っている。また高齢者がいつまでも健康で過ごせるために「曙元気百歳体操クラブ」を実施している。車で参加している参加者は、今後免許の返納等で来られなくなるとひきこもりや寝たきりになるのではと不安を持っている者もいる。町内会の他団体と協力して地域の集会所を利用できないか相談していきたいと考えている。
- 一文字堤防に監視カメラを設置し、インターネット配信をして欲しい。一文字堤防が壊れると広く市街地に浸水する。警察・消防等行政機関にとっても、救援の対応に役に立つと思う。
- まちづくり計画に基づいて事業に取り組んでいる。1つは「曙っ子見守り隊活動事業」。今年10月から実施しており、60数名のボランティアの協力で実施している。  
もう1つは「防災・減災対策事業」。学区にいる防災士6名をリーダーとして防災活動に取り組んでいる。福山市防災訓練に併せて実施した学区避難訓練・研修会では197名の参加があった。事業を実施する中で、①防災無線が聞き取りにくいいため、現在の設置場所から新浜町の高台に移設して欲しい。②水害発生時の一時的避難場所として、旧新浜浄化センターを多目的広場に整備して欲しい。という意見があった。
- 小学校では、地域の方が登下校時に交差点等に立ち見守ってくれている。また、あいさつ運動や月1

回のAKG（あけぼの けんこう がんばろう）の呼びかけ時には、一緒に門に立って声かけをしてくれる。その他にもくわいや稲を育てるときの指導や、週1回の読み聞かせにも来てくれる。小学校でも、曙町のために「ふるさと守り隊」を立ち上げ、ボランティア活動に取り組んでいる。防災についても学習しており、避難訓練や下校時に3階建て以上の建物を確認しながら帰っている。

- ・旧新浜浄化センター跡地を売却してもよいが、屋上を利用できるようにさせて欲しい。学区の防災関係の資材は公園にあるが、浸水したら使えない。学区12町内会があるが、屋上を利用させて欲しい。旧新浜浄化センターについて、行政は避難施設に適さないと言っているが大丈夫。
- ・学区の町内会加入率は68%。防災計画を策定したが、要支援者を誰が避難支援するのかということは、全員が町内会加入していたら話ができる。「自治会加入促進条例」を考えて欲しい。費用については、行政がやることを地域がすることによって行政のコストを下げ、その金を町内会費として全市に配分すればよい。

### <市長のまとめ>

- ・不登校児のケアは地域でも気になる事柄だと思う。社会との関わりが苦手な人がひきこもることで、ますます社会と遠ざかってしまうという悪循環につながる。県も市も専門家の意見を聞きながら対策を進めているが、なかなか効果がでてこない。あまり性急な成果を求める話ではなく、これまでやってきたことをまずは信じて、地道に粘り強く取り組んでいきたい。また、NPOが不登校児を支援する取組をやっているのだから、そうした情報を差し上げたい。
- ・女性会の活動について、今後は「防災」という切り口で取組をすれば参加者が増えるのではないかと。男性が不在の場合家庭にいる女性が地域をどう守るか、そうした観点も盛り込んでいただければと思う。また他学区の事例も持ってきているので、参考にしてもらえれば。
- ・子ども会活動について、今まではそれぞれの団体がそれぞれ活動できた時代だったが、人口減少・高齢化・役員の成り手不足あるいはそれぞれの家庭の価値が多様化する時代にあっては、それぞれの独自の活動にこだわるのではなく「三世代」でスポーツやイベントをすればいいのではないかと。子どもが楽しむと祖父母世代は無条件で嬉しい。一緒になって「孫」世代と楽しみ、そうした取組に保護者世代もひっぱられていくのでは。そういう形で地域の再構築に取り組むやり方があると思う。
- ・小学生のソフトボールについて、女子もソフトボールをやりたいという希望が強い。現在ソフトボールには3人の女子枠があるが、これをなくして欲しいと相談している。好きな競技をできることが一番。そうすることで、スポーツに長く親しめて、それが地域のつながりにつながっていくようなことを考えている。一緒になって子どもの笑顔を維持していきたいと思う。
- ・東村学区では地域と小学生と一緒に米や芋を作り、収穫したものを一緒に料理して収穫に感謝するという、世代を超えた取組をしている。そうすることで地域の連帯が生まれる。老人会だけの取組ではなく、世代を超えて一緒にやる取組を新たに事業としてスタートするのもいいのではないかと。
- ・災害時の避難については、高いところに避難できる「垂直避難」を心がけるということが1つのやり方。身近な場所で、上にあがって安全を確保するという「共助」と「公助」が一緒になって取り組むということ。地域の工場あるいは会社の3階を使わせてもらうよう、地元と行政と一緒に頼むという形で、身近な避難施設をあらかじめ用意することが望ましいと思う。複数の「安心の場所」を確保する取組につなげていきたい。

- ・安全な避難所の確保の問題について、津波が来るまでの4時間をどう効率的に使って、混乱なく安全に避難をするかということを考えるのが第一。それと同時に、逃げ遅れた人にとって、どういう安全な場所や避難所を最低限確保されなければいけないかという議論につなげていかないといけない。学区ではそういう取組を始められていると思うが、もう少し加速していきたい。学区と一緒にしっかり議論をさせて欲しい。地域防災計画も場合によっては地域の判断で見直すべきところは見直していただくことも必要だと思う。
- ・ネウボラで、民生委員やボランティアの会が進めている「ブックスタート」事業をこれから取り込む。出産を控えた母親にプレゼントする「ネウボラギフト」に絵本を入れたいと思う。そうすると全ての新生児に絵本が行き渡る。全学区で実施したいと思っている。
- ・「1000万人ラジオ体操」「巡回ラジオ体操」の福山開催については、現在申込み中。当選するかどうかかわからないが、来年の2月頃発表がある。
- ・福祉を高める会の活動について、できるだけ集会所をお互いに利用し合う形で居場所を確保できるようになればいいと思う。学区内だけではなく、学区を越えて自治会長同士で相談していただき空いていれば使用させていただくこともあってもいいのではないかな。
- ・高齢者、特に一人暮らしの方の移動に「おでかけ支援事業」がある。ボランティアの運転手が移動の際の手助けをしてくれる事業。場合によっては担当から改めて説明させていただく。
- ・一文字堤防の監視カメラについては、本当に必要な設備、命に係る設備だと思う。市職員が県とかけあう中で、11月には県から監視カメラの設置について前向きに取り組みたいという話があった。設置内容や維持管理について、県と市で協議する体制になったので、引き続きがんばる。
- ・避難場所については、企業の理解も得て、出来るだけ多くの3階以上の場所を確保することを踏まえながら、全体として地域の安全を確保するため、引き続き地域とよく協議をしていきたい。
- ・小学生の活動について特に素晴らしいと思ったのは、みんなが自ら行動していること。「ふるさと守り隊」の取組は素晴らしい。自らできることを精一杯取り組む姿を見た大人たちは、その取組につられてもっと地域を守っていかなくてはという気持ちになると思う。
- ・これから建設予定の社屋や工場の屋上を避難施設にぜひ使用させて欲しいという依頼は、今ある施設も含めて改めて取り組んでいかなくてはと思う。避難所を旧新浜浄化センター跡地に作るかどうかについては、色々意見がある。引き続き考えていく。高い所へ、垂直に避難するという考えや発想は重要。そこをたくさん作るということを基本にしたい。

### <地域からのあいさつ>

本当にお忙しい中を、我々の色々な分野をよく検討いただきまして、ご回答いただきまして、本当に心から感謝申しあげます。ぜひ、新しい福山市を、色々なまちづくりを期待していますのでご活躍を心からお祈りしています。ありがとうございました。